鹿児島県新卒等訪問看護師育成プログラムが始動し、3名の新卒訪問看護師が第一歩を踏み出しました！

地域包括ケアシステムの実現へ向けて、在宅医療を推進する上で重要な役割を担う訪問看護の需要は、増加しています。そのため積極的な人材確保及び育成を行うことが必要となり、令和２年度から訪問看護供給体制確保推進事業のなかで鹿児島県新卒等訪問看護師育成プログラムが作成されました。

本年度ついに新卒訪問看護師が３名誕生しました！！

笹貫訪問看護ステーション「愛の街」に１名と訪問看護ステーション「みなみ風」に２名の新卒訪問看護師を迎え入れました。

今回、笹貫訪問看護ステーション「愛の街」の新卒訪問看護師の疇地眞子さんと在宅支援部中薗明子部長、管理者代理の宮内幸子さんにインタビューさせてもらいました。

Interview

Q1　訪問看護師を目指した理由は何ですか？

疇地さん）叔母が祖母を自宅で介護しており、24時間介護の状況で負担が大きいと感じていたことや、また友人の祖父母が１日がかりで通院しているのを見て、高齢者には負担が大きいと感じていた。
地元は近くに病院はなく、交通網も整っていないため、住み慣れた自宅で過ごしたいが過ごせない状況である。住み慣れた自宅で過ごすために、自分が何か出来ないのかと考えている時に訪問看護師の存在を知った。
訪問看護師になって自宅に訪問することで負担を軽減してあげたいと思った。そして住み慣れた自宅で過ごす支援をしたいと思った。

Q2　やりがいは何ですか？

疇地さん）訪問した利用者さんが「来てくれてありがとう。（訪問日が）楽しみなのよ。」と声をかけてもらったり、訪問すると笑顔になったり、安心した表情をされたりしているのを経験して、訪問看護師は在宅で過ごされている方々の頼りになる存在だと感じた。

Q3　実際の指導の状況について（教育プログラム）教えてください。

中薗在宅支援部長、宮内管理者代理）
受け入れ準備としてハード面（話しやすい机の配置、分かりやすい物品の配置、チェックリストの作成など）、ソフト面（みんなで教えるスタンス）から整えた。
若い方が入ることで新しい看護技術や倫理について先輩看護師達も改めて話し合ったりして良い影響が生まれた。
慈愛会の新人研修に参加したり、病院での臨床研修を行っている。

疇地さん）訪問看護師は、行き帰りの車内で指導者と１対１で利用者のことで分からないことなど何でも話せるので、手厚い指導をもらえて有難い。

Q4　受け入れにあたっての課題がありますか？

中薗在宅支援部長）
看護技術等の研修を受け入れてくれる医療施設の確保や、教育期間中の経済的支援が必要である。これがあれば母体病院がない訪問看護事業所でも新卒を受け入れられるのではないかと考える。